



しぶやをつくるゼミ

Shibuya City
Imagination and Creation
Seminar

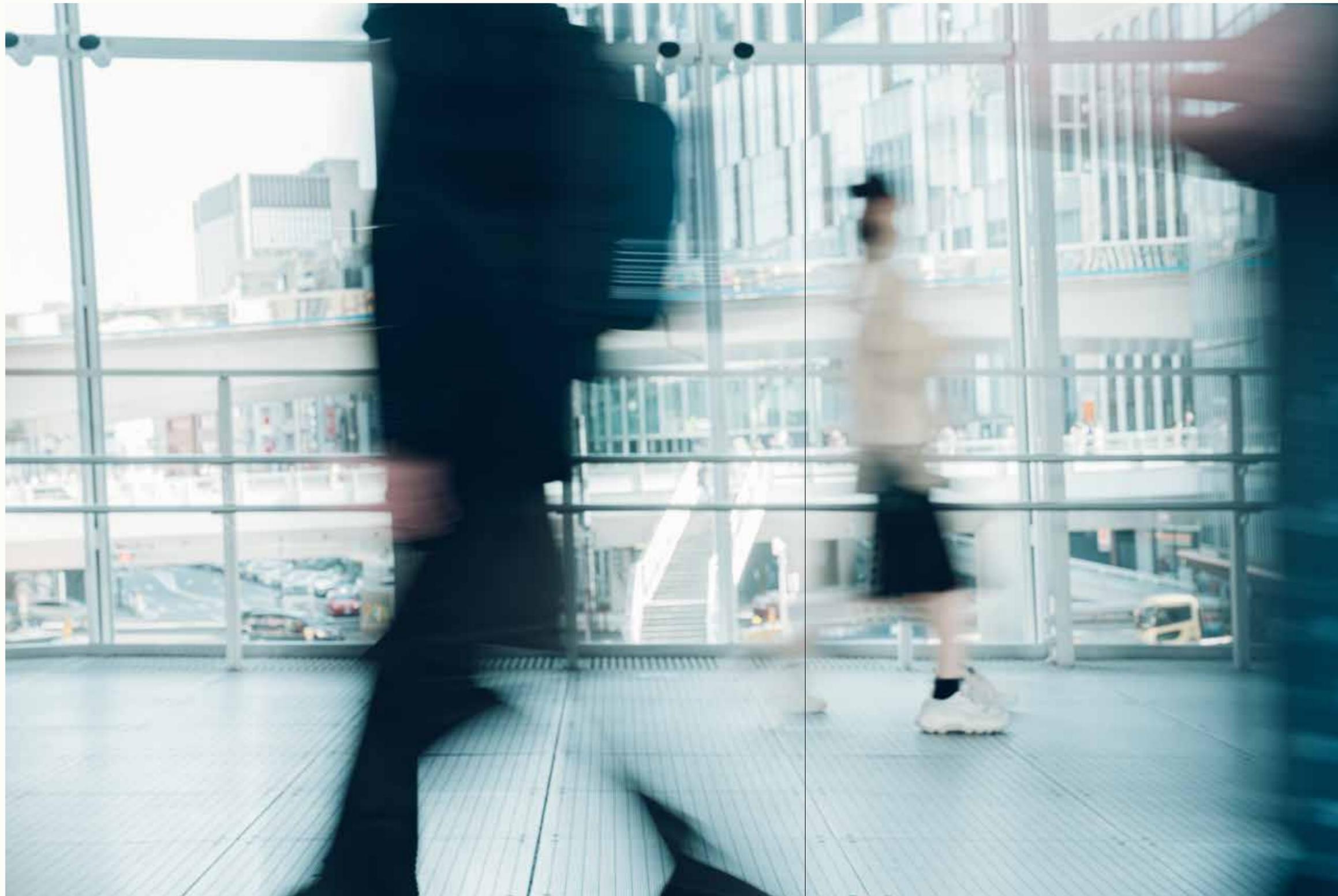
Archive Report
2021-2022



しぶやをつくるゼミ

2021-2022





①

→ 融合 フェージョン

- ・ 7ヶ所ポイント
- ・ つながる
- ・ 変わりゆく過程
- ・ 手あか
- ・ 人がいる感じ
- ・ 場所の記憶
- ・ 文化と文化がセカンド
- ・ デジタル×アナログ

好きな物へのアクセスを高める必要があるのでは？
 受着への時間の長さは関係ないのでは？
 今しか見れない物とかを知る体験
 すぐはいく数でも共感興味もてもらう
 オンラインとオフライン融合
 VR・AR
 QRコード付フラッグ
 ストリートビューとコラボ

②

・ 「インスタ」ふれたい渋谷 テーマ×SHIBUHACHI BOX 街のサイネージ等を紹介

- ・ QRコードフラッグ 商店街紹介
- ・ 井のテーマをきめて写真募集 → カタログなどに集約
- 写真 → ARで出現 } 五感を生かした体験ができる
- 「物を見せる体験ができる」

ゲーム
ファッション
観光...





Contents

- 14 Imagination
「しゅやをつくるぜみ」とは
- 16 Introduction
ぜみ開講の背景
- 18 Activities
グループ活動の様子
- 20 Presentations
グループプレゼンテーション
 - Team 1 Enjooooooooo!!!!
 - Team 2 とっぶらヤーシブ
 - Team 3 トガリ
- 24 Group Interview
グループインタビュー
- 30 Future
まとめと今後の展望

Imagination

しぶやをつくるゼミとは？

しぶやをつくるゼミは、
 「渋谷のまちにこんなモノ、コトがあったらいいな」
 という思いを持ち寄り、好奇心をもとに
 皆と共有、議論しながら新しい景色を
 ソウゾウ（想像／創造）するゼミナールです。

住

む人、働く人、訪れる人、街をつくる人などそれぞれ
 の肩書きを忘れ、渋谷のまちについて思い
 のままに話し合う。

「渋谷に対するエピソードや思い出、愛着などから生ま
 れる想像豊かなアイデアと、それを創造する（実現させると
 いう）プロセスを体感することで、このまちがさらに大勢か
 ら愛されますように」しぶやをつくるという名前にはそんな
 願いを込めています。

この活動は、渋谷のまちづくりを推進する一般社団法人
 渋谷駅前エリアマネジメントと、渋谷で生涯学習を支
 援する特定非営利活動法人シブヤ大学が協力することによ
 って誕生しました。

しぶやをつくるゼミに参加するための資格はありません。
 性別や世代、職種をこえて渋谷のまちについてソウ
 ゾウし、「自分たちの渋谷」をつくる。これが全てです。

渋谷のまちづくりに関わりたいと考えている方々や、違
 う立場の人と自由に議論する場を欲している方々のため
 の活動です。このパンフレットを手にしてくださったみな
 さまが、今後のゼミナール活動にご参加いただければ幸
 いです。



Introduction

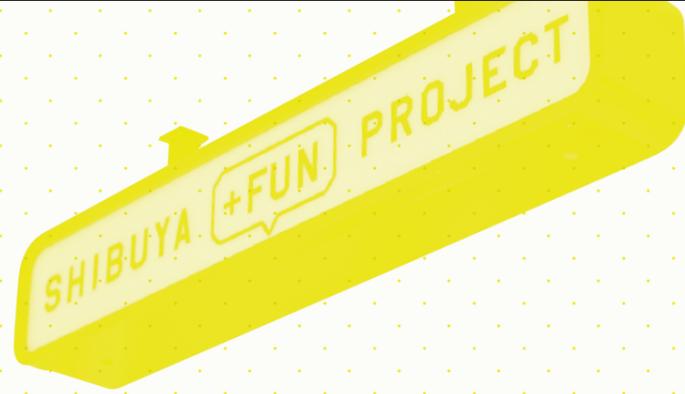
ゼミ開講の背景

「100年に一度」と言われるほどの再開発が進行中の都市、渋谷。まちの骨格が大きく変化している現在、渋谷でまちづくりを推進する我々ができることは何かを考えました。

「渋谷は誰のためにあるんだろう？」それは、渋谷において住む、働く、遊ぶなど活動をする全ての方々のため。「なぜ我々は渋谷でまちづくりをしているのだろうか？」それは、このまち渋谷がさらに豊かな場所であってほしいから。「じゃあ渋谷に必要とされる場所や機能、要素ってなに？」それは、色々な人たちと会話してみなければわからないなあ。

だから、我々は「しぶやをつくるゼミ」を開講いたしました。その理由は、渋谷に関心を寄せる多様な方々とコミュニケーションを重ねられる場が必要だと思ったから。多様性溢れる渋谷が、さらに豊かな場所になって欲しいと思うから。

まちが変化している今だからこそ、これからの渋谷について議論することに意味があると感じています。「渋谷でやりたいことがある」「誰かと渋谷について語り合いたい」「多様な人たちと繋がりたい」。そんな秘めた情熱や好奇心をいただいている方が活躍できる場をつくりたいと思い、「しぶやをつくるゼミ」はスタートしました。



これから渋谷について議論することに意味がある



「しぶやをつくるゼミ」の特徴

しぶやをつくるゼミは、「しぶやのまちにこんなものがあつたらいいな」という好奇心や探究心を軸に活動が進んでいくことを大切にしています。既存の考え方に囚われない自由な発想が生まれてくる活動です。

そのために、参加者が対話するプロセスを重視し、余白を多く持たせるプログラム設計としました。グループでの活動に重きを置き、運営側から伝える情報はあくまでゼミ生のアイデアを応援し、それに至った背景を見つめなおすことに限っています。また、一般社団法人渋谷駅前

エリアマネジメントのメンバーがグループメンバーとして活動のプロセスに関わり、企画を渋谷で実現させていくための考え方や具体的な課題を共有して現場で活動するために必要な視点を取り入れることで、アイデアが机上の空論で終わらずに現場で実施するイメージがしやすくなることも重視しています。

「しぶやをつくるゼミ」が一過性の場で終わってしまったり予定調和な議論をする場となるのではなく、持続的でありながら変化し続けていく場へ育っていくことを目標としています。

プログラムの内容

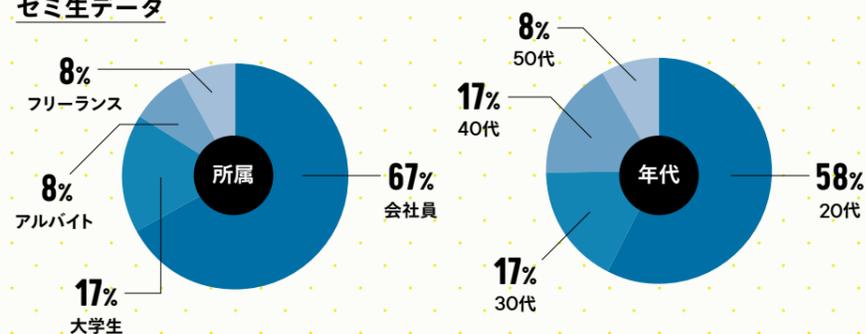
日程：2021年9月 - 2022年2月

2021年	2022年
9月15日(水) 第1回：オリエンテーション	1月20日(木) 第5回：グループワーク
10月14日(木) 第2回：全体ディスカッション、グルーピング	2月10日(木) 第6回：最終発表
11月11日(木) 第3回：グループワーク	
12月9日(木) 第4回：中間発表	

ゼミ生データ・実施概要

しぶやをつくるゼミ2021では、渋谷区民、渋谷に職場がある人、そして渋谷にこれまで縁がなかった人など様々な人が参加しました。

ゼミ生データ



渋谷との関わり (複数回答含め)

- 渋谷区在住 … 12
- 渋谷区在勤/在学 … 4
- 月に数回行く … 3
- 年に数回行く … 3

実施概要

日程：2021年9/15、10/14、11/11、12/09、2022年1/20、2/10 ※全ての日程で19-21時開催
 対象：全日程に参加できる方、zoomやslack等のオンラインツールを使用できる方
 募集人数：15名
 開催形式：現地、オンライン
 現地開催場所：渋谷ソラスタ 東京都渋谷区道玄坂1丁目21-1
 参加費：無料



Activities

グループ活動の様子

色々な意見や
アイデアを議論するって
楽しいなあ。



第1回

9月15日(水)
オリエンテーション



渋谷でそば打ちが
したい!

第3回

11月11日(木)
グループワーク



第5回

1月20日(木)
グループワーク



どのチームのアイデアも
面白くて参考になるなあ。

忠犬ハチ公の銅像は
何年に完成したでしょうか?



2021

2022

第2回

10月14日(木)
全体ディスカッション、
グルーピング



第4回

12月9日(木)
中間発表



第6回

2月10日(木)
最終発表



ゼミ生が主体となって活動をデザインする

「しぶやをつくるゼミ」はグループでの活動が中心です。2回目のゼミからは、活動そのものを自分たちで考え、決めていく(デザインしていく)設計となっています。全6回のゼミの中では事務局から提供する情報は、必要最低限に留めてグループで話し合う時間を十分に取る構成になっています。また、全体での活動日以外にもグループごとで自発的なミーティングやフィールドワークが行われました。グループメンバーが渋谷で気になっている場所に行ってみた

り、詳しい人がまち歩きの案内役をやったり、現場でアイデアを出し合ったり、事例を調べて持ち寄ったり、渋谷で活動している団体にヒアリングを行ったりと、それぞれのグループによって活動内容は多岐にわたります。

コミュニケーションツールはslackを活用。グループごとにチャンネルを作成し、その中でオンラインのコミュニケーションが活発に行われました。



緊張したけど
うまくプレゼンできて
よかった~!!



Presentations

グループ プレゼンテーション

半年間の活動を踏まえて3つのグループから、渋谷のまちで実現したいアイデアやその理由、そして具体的なイメージが発表され、全体で意見交換を行いました。



Team 1 → Enjoooooooooy!!!!

Team 2 → とっぷらヤーシブ

Team 3 → トガリ



Team 1

Enjoooooooooy!!!!

プレゼンターマ

やりたいことの実現を応援するプラットフォーム
「タノシブ」

ポイント

- ・ひとりひとりの「楽しい」「やってみたい」という思いを尊重したい
- ・つなぐことで各個人のやりたいことを応援し、実現させるプラットフォームをつくりたい



「個

人の“楽しさ”を大切にしたい、それぞれの夢や楽しさを応援できる場所を渋谷につくれないうか」という思いから提案されたのは、つながることで各個人のやりたいを叶えるプラットフォーム『タノシブ』です。実際に『タノシブ』を使って、「渋谷で焚き火をしたい!」「渋谷でマイナースポーツをやりたい!」という思いを持つメンバーが参加するとどうなるのか、具体的なストーリーと共に紹介されました。

- 1) 『タノシブ』ウェブサイトへ会員登録、またはやりたいことをポストへ投稿
- 2) 集まった個々のやりたいことに対して、共感した『タノシブ』会員から仲間・場所・

ノウハウなど必要なものを提供

- 3) 実現に向けて打ち合わせ
- 4) いざ実現!
- 5) 実現させた人が、今度はサポート役となり、ほかの人を支援し「楽しい!」の循環が起こる

ひとりひとりのやりたいこと、楽しいという思いを起点とし、応援したい人や一緒にやりたい人を巻き込んでいくプラットフォーム。ポストに投函という手段を設けているのも、インターネットを使っていない人も利用できるようにするため。そしてたまたま渋谷に来ていた人も、その場で、思い付きで関われる可能性をつくりたい、と細部まで関わる人への配慮を欠かさない提案でした。

みんなの「やってみたい」を実現しよう!



Team 2

とっぷらヤージブ

プレゼンテーマ

もっと渋谷のぷらっとにワクワクとドキドキを！ ～ Shibuya “Lover” 増殖計画 ～

ポイント

- ・待ち合わせはとりあえず“ハチ公前で”と言ってしまふ渋谷ライトユーザーに対して、いつもなら通り過ぎてしまう場所のおもしろさを伝え、渋谷に愛着を持つ人を増やしたい
- ・実際に公式LINEアカウントをつくってしまった！

最

終発表の冒頭、「こちらを読み取ってダウンロードしてください」という案内から出てきたのは、LINEアカウント『シブのハチ』。公式LINEアカウントを制作して手元で実際に触ってもらいながら理解を深めてもらう、体験型の提案でした。

発想の原点は大きく2つ。

1) ハチ公広場前で待ち合わせした時の不快さ
ハチ公広場前は人が込み合っている印象が強く、待ち合わせ場所として適していないのではないか、もっと渋谷のおもしろさを伝えることはできないだろうか、という疑問から。

2) 渋谷をぶらっと歩いたときに感じた、まだ知らない渋谷の存在

「モヤイ像はルパンに盗まれた」「渋谷川にカバがいたことがある」など、渋谷にまつわる知識・雑学を教えてくれた人がいたことで、渋谷を歩くのがすごく楽しくなった！というメンバーの経験から。

LINE『シブのハチ』メインメニューには、GoogleMapと連動した道案内や、渋谷をより安全に楽しんでもらえるコンテンツが配置されています。

その中でも注目は『スタンプラリーツール“RALLY”』。専用ウェブサイトを用い各場所で提示されたクイズに答えると、知識を得ることはもちろん、クーポンやモビリティなどに交換できる『しぶやポイント』が貯められます。ポイントを使ってもらうことで、まちの活性化へも繋げていく狙いです。

いつもなら通り過ぎてしまう場所、見過ごしてきた景色の中に面白さを発見し、渋谷を愛してもらいたいという思いから生まれたこのLINEアカウント、つつい渋谷を歩きたくなくなってまいそうです。



<https://lin.ee/kt7R5Lh>

左のQRコードを読み取って
ぼくの“友だち”になって
待ってほしいワン！



シブのハチ

渋谷を歩くのが
楽しくなるLINE、
つくっちゃいました！



Team 3

トガリ

プレゼンテーマ

広場の天井×地図×喜怒哀楽

ポイント

- ・広場と地図の新たな読み解き
- ・人々の「感情」を頭上へ投影し上を向くことで非日常空間をつくる

渋谷駅東口地下広場

×
天井
×
地図
×

喜怒哀楽(人々の想い)



トガリの考えるシブヤ(再編)

街の中にある様々なシーンや文化がそれぞれに独立して立っている。それらが並立して共存している。

→ 上へと昇華していくイメージ

企画により生まれる価値

- ✓ 大規模な空間を「上」に向けて活用
- ✓ 「上」に向けて活用する空間の「上」に向けて活用
- ✓ 人々の「上」に向けて活用する空間の「上」に向けて活用
- ✓ 人々の「上」に向けて活用する空間の「上」に向けて活用

渋谷における、心や自分自身の存在場所が分かる
オンリーワンの広場へ！

広

場に集まっている人がみんな上を向いていたら非日常だと思う、そして上を向いた先に人々の感情が投影されていたら普段の渋谷も違って見えるかもしれない。

そんな発想から生まれた提案は、渋谷駅東口地下広場の天井に、抽象的な渋谷の地図と人々の感情が投影されているインスタレーションです。東口地下広場の天井に抽象的な地図を投影し、設置された端末から“想い”と“場所”を入力すると、実際に地図に“想い”が反映される仕組み。

広場の天井×地図×喜怒哀楽という掛け合わせが生まれた背景には、哲学的な要素が多く含まれます。

広場は「迷った際に自分の位置を物理的に確認するため、一旦行ってみようとする場所」であることから、地図と広場が結びついています。また、一般的な地図は目的地に行くために活用するものですが、今回提案する地図は自分の位置(マインド)も確認できる「心のコンパス的存在」。渋谷という街の中に自分がいるという発想を抽象的にアート化する今回の提案では、これまで活用されていなかった天井を利用し、人が「上を向く」という動作をつくることで非日常空間を生み出すという提案が行われました。

「上を向く」という非日常的な行動を人々が渋谷のど真ん中で行うとどうなるんだろう、そして人々の感情を知ることで自分の行動も自然と変わる気がする、と夢は膨らみます。

みんなが思わず
「上を向く」広場が
あったらいいなあ。



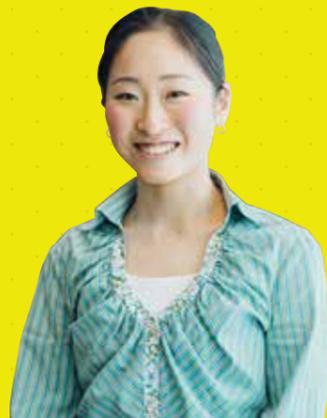
Group Interview

グループインタビュー

Enjooooooy!!!!

いぶちゃん

佐藤伊吹(さとういぶぎ)



とっぷらヤーシブ

さえぼん

三枝佳佑(さえぐさけいすけ)



Enjooooooy!!!!

しんじさん

渡辺真史(わたなべしんじ)



「しぶやをつくるゼミ2021」のあれこれ! ゼミ生に聞きました!

「しぶやをつくるゼミ2021」では、20代～50代まで幅広い世代が参加。

そこで、6名のゼミ生にインタビューを実施し、

ゼミに応募したきっかけやチーム活動の思い出を聞きました。

ゼミの全貌が見えてくる内容が盛りだくさん!



半年間にわたるゼミ活動について、和気あいあいと振り返りました。

とっぷらヤーシブ

つるさん

鶴岡宝(つるおかたから)



トガリ

れいちゃん

佐藤玲(さとうれい)



とっぷらヤーシブ

ゆうきさん

平川雄基(ひらかわゆうき)



「しぶやをつくるゼミ」、 応募したきっかけは?

いぶちゃん: 私は千駄ヶ谷に10年程住んでいて渋谷の良いところをたくさん知っていたので、渋谷が苦手な人に対して渋谷の魅力を知ってもらいたいとずっと思ってたんです。渋谷=汚い街というイメージを払拭したくて。そんな時にゼミを知って思わず応募しました。

さえぼん: 僕は勤務先の掲示板でゼミを知りました。もともと街歩きが趣味でしたが、渋谷に関してはよく飲みには行っていたものの決して

好きな街ではなかったので、深く知る機会がなかった。近くにあるのに知らないことが多い渋谷に対して、何か取り組んでみたいと思いました。

つるさん: 僕は生まれも育ちも渋谷で、渋谷から出たことがない。昔から渋谷が大好き。だから渋谷を好きになってくれる人が少しでも増えればと思い参加しました。

れいちゃん: 「しぶやをつくるゼミ」という名前を聞いた時に、「既に多くの人や建物で溢れている渋谷という街で、まだ新しいものを作るの!？」と興味をそそられたのがきっかけ。学生時代から、将来は地方活性化に携わりたいと思っていましたが、地方での活動とは違う視点を得られるのではと思い参加しました。

ゆうきさん: 僕は渋谷に住んでいて勤務先も渋谷にあるのですが、コロナ禍において家と職場の往復のみで…単純にもっと渋谷を知りたい、渋谷に関わる人々に出会いたいと思いました。

しんじさん: 昔から、渋谷に行けば何か楽しいことがあるはず!という憧れを持っていました。また趣味として配信しているYouTubeで

地方での活動とは違う、 渋谷ならではの視点を 得られるのでは

渋谷の工事現場の動画を投稿したら視聴数が伸びたことがあり手応えを感じていて。ゼミに参加すれば「最新の再開発情報を知れるかも…！」という下心もありました（笑）

—みなさん渋谷が好き、苦手、様々な気持ちがあったものの、何かしら渋谷への関心を持っていたんですね！

実際のチーム活動、どうだった？

「みんなで楽しむ！」を貫いた Enjoooooooooチーム

—チーム名の通り全員が楽しんでいた印象が強いですが、いぶちゃんから見てどうでしたか？

いぶちゃん：チームメンバーの人数が多かったので、最初はそれぞれが持つ「渋谷でやりたいこと」が乱立していて、なかなか意見がまとまらなかったです。でもその中で共通していたのは「渋谷でわくわくしたい」という思い。なので「みんなのやりたいことを全部実現させよう！」という話になり、多くの人が訪れる渋谷だからこそ、「人と繋がる」をテーマに企画を作りました。

しんじさん：そうですね、メンバー一人ひとりのやりたいことの種は違うけど、みんなで楽しんでいこうという雰囲気はいつもありました。—みんなの意見が違う時は、一人の考えを優先して膨らませていくことが多いかと思います。一方でEnjoooooooooチームの素敵ところは、みんな違うならどれも捨てずに全部包括していく！という発想に至ったところ。そこに辿り着くまでどんな経緯がありましたか？

いぶちゃん：誰か一人のアイデアだけを取り上げて仮に実現できたとしても、1回きりで終わってしまう。それより、みんながやりたいことを叶えられるプラットフォームを作った方が持続性のある仕組みに繋がると思っていました。

しんじさん：ゼミ自体に「どんな意見も尊重する」というコンセプトがあったからこそ、チームメンバー全員が「相手の意見を否定しない」というマインドを持っていたと思う。

ゼミには、「どんな意見も尊重する」というコンセプトがあった



—ゼミのコンセプトがEnjoooooooooチームの最終発表案に繋がったのかと思うと感慨深いですね。

多彩なアウトプットで魅せてくれた とっぷらヤージブチーム

ゆうきさん：とにかくめちゃくちゃ楽しかった。「渋谷への愛着を深めてもらう」というテーマのもとにメンバーが集まり、最初にみんなで渋谷を散歩しましたが、そこで様々な発見がありました。まず、つるさんがこんなにも渋谷に詳しいのかと！

—つるさんの知識には驚かせられますよね！実際に渋谷を歩いてみてどうでした？

さえぼん：つるさんから渋谷の知識を大量に浴びせられました（笑）。1を聞いたら100返ってくるので、でもそれを通して自分自身の知的好奇心が満たされていくのを実感し、渋谷へ関心持ってもらう手段としてクイズというアイデアが浮かびました。

—実際にLINEアカウントを作ってみてどうでしたか？

つるさん：アジャイル開発に近い形で、トライ＆エラーを繰り返しながら様々なことを試せたので楽しかった。最終発表会がリモート開催だ

だったので、みなさんの反応を見れなかったのは惜しかったです…。

さえぼん：中間発表も最終発表も見せ方にはこだわってました。プレゼンって一方的に話しがちな中で、聞き手も巻き込みたいと思っていて。クイズに参加してもらったり、実際にLINEアカウントを触ってもらったり。

—たしかに、視聴者側を楽しませてくれるプレゼンで嬉しかったです。

ゆうきさん：チームメンバーで飲みに行けたのも楽しかったし、良い関係性を築けていたと思います。

つるさん：ただの酒好きの集まりですけどね（笑）

—渋谷の莫大な知識とクリエイティブな発想力を兼ね備えた強者チームだと思います！

想いとコンセプトにこだわりを追求した トガリチーム

れいちゃん：「そもそも渋谷ってどんな街だろう」とディスカッションする中で、「多様性」というキーワードに着目していました。ただ、この着眼点が実際に企画として形になっていったのはゼミの終盤。メンバー間で、想いやコンセプトの擦り合わせにひたすら時間を割いてい



ました。最終発表までとにかくぎりぎりだったので、当日は不安もあって。

——想いやコンセプトを具体的なアイデアに落とし込むまでが大変だったんですね。

れいちゃん：そうですね、特に中間発表会から最終発表までの間が苦しかった。根底となる想いを全員で固めないと、後からボロが出ると思っていたので。チーム名「トガリ」の割には、メンバーは良い意味で普通っぽい人達の集まりだったので、全員で頭を捻りながらなんとか最終発表案に辿り着けました。

——「渋谷を訪れる人の心の動き」というテーマは興味深かったです。

れいちゃん：渋谷にいる多種多様な人を否定しない、その人々の感情や文化を読み解いていくといったコンセプトから、最終的には「人の感情や気持ちを上にあげる」という企画に至りました。

——東口地下広場でやることの意義や理由までしっかり作りこめていたので、企画の背景にある想いに理解を深めていく大切さを教えてもらいました。

れいちゃん：上を向くことって立ち止まらなれないと思っていて、渋谷で日々慌ただしく過ごしているとなかなかできない行為だと思うので、忙しい中でも一瞬でも上を向いて自分の気持ちを整理できるような空間になればと思っています。

——たしかに…！立ち止まらなれないと上を向け

ない…なんかかっこいい！

「しぶやをつくるゼミ、楽しかった！」の根底にあるものは？

——改めて振り返ってみて、ゼミを通して何が一番楽しかったですか？

いぶちゃん：自分とバックグラウンドや年代が異なる人たちと関わることが新鮮で楽しかった。コロナ禍も相まって人と会う機会がどんどん限られていく中で、新たな人との出会いに繋がったので刺激的でした。

さえぼん：自分自身がそこまで渋谷を好きではなかったけれど、ゼミの活動を通して、どんどん渋谷への愛着が深まっていった。変わりゆく渋谷の様子を楽しんでいきたいなと思えるようになったのもゼミのおかげだと思います。

れいちゃん：普段働いていると、一つの仕事に対して全員が同じ熱量を持っている環境ってあまりないのかと思っていて。同じ仕事に対して、念願だと思う人がいれば、仕方なくやる人もいる。でもゼミは、全員がポジティブな気持ちで集まっているので、そういうコミュニティに参加できることが楽しかったです。

ゼミでの活動を経て、今後チャレンジしていきたいことってある？

——渋谷云々問わず、ゼミを通じて今後やっ

参加者全員が、 ポジティブな気持ちで 集まっている

てみたいことはありますか？

つるさん：自分は実際に手を動かすことが好きなんだと改めて実感しました。このゼミに熱中できたのは、自分が納得するまで時間をかけて企画を作りあげることができたからだと思

う。今後も自分が満足するまで手を動かし続けていきたいです。

ゆうきさん：僕は渋谷にある老舗巡りをしたい！渋谷には創立100年以上の飲食店がたくさんあるそうで、わくわくします。まだまだ

知らない渋谷がたくさんあるので、探索していきたいです。

さえぼん：ゼミに参加してみて、街づくりは事業者だけのものではなく誰が参加しても良いんだと思いました。渋谷に関心がある人が集まって渋谷をもっと良くするためのアイデアが出て

くること自体が街づくりに繋がるのでは？と。なので、自分が住んでいるエリアでこういう取り組みがあったら一市民として参加したいと思っています。

ゼミのおすすめポイント！

——最後に、しぶやをつくるゼミのおすすめポイントを教えてください！

いぶちゃん：自分の知的好奇心を満たせる場所です。渋谷に少しでも関心があれば参加することで何かしらの気づきを得ることができると思います！

れいちゃん：予想を超えてくる面白い人にたくさん出会える。そんな人達と一緒に楽しい時間を過ごしていきましょう！

しんじさん：Let's enjoy！が全てです！多様性と受容性がある渋谷を一緒に盛り上げていきましょう！



Future

まとめと今後の展望

「しぶやをつくるゼミ」は、「渋谷にこんなモノ、コトがあったらいいな」そんな思いを大切にしています。まちのあらゆることを議論し、アイデアを生み出すことで、渋谷のまちを一層豊かにし、さらなる多様性を生み出していきたいと思っています。

このゼミナールに参加してくれた人たちが、今まで関わることのなかった人々と繋がり、その輪が広がり、個人もまちも豊かになる。

そんな豊かさが最大化されると、多様性にあふれた「渋谷らしさ」が続いていくものだと考えています。

そのために、我々はこのゼミナールを継続的に開講してまいります。

「一人ひとりのやりたいことを、渋谷なら叶えてくれる」そんな風に、日本中、世界中の人に思ってもらえるように。

「まちづくりに興味があるけど、どう参加していいかわからない」

「普段関わらないような人と喋ってみたい」

「とにかく渋谷が大好き」

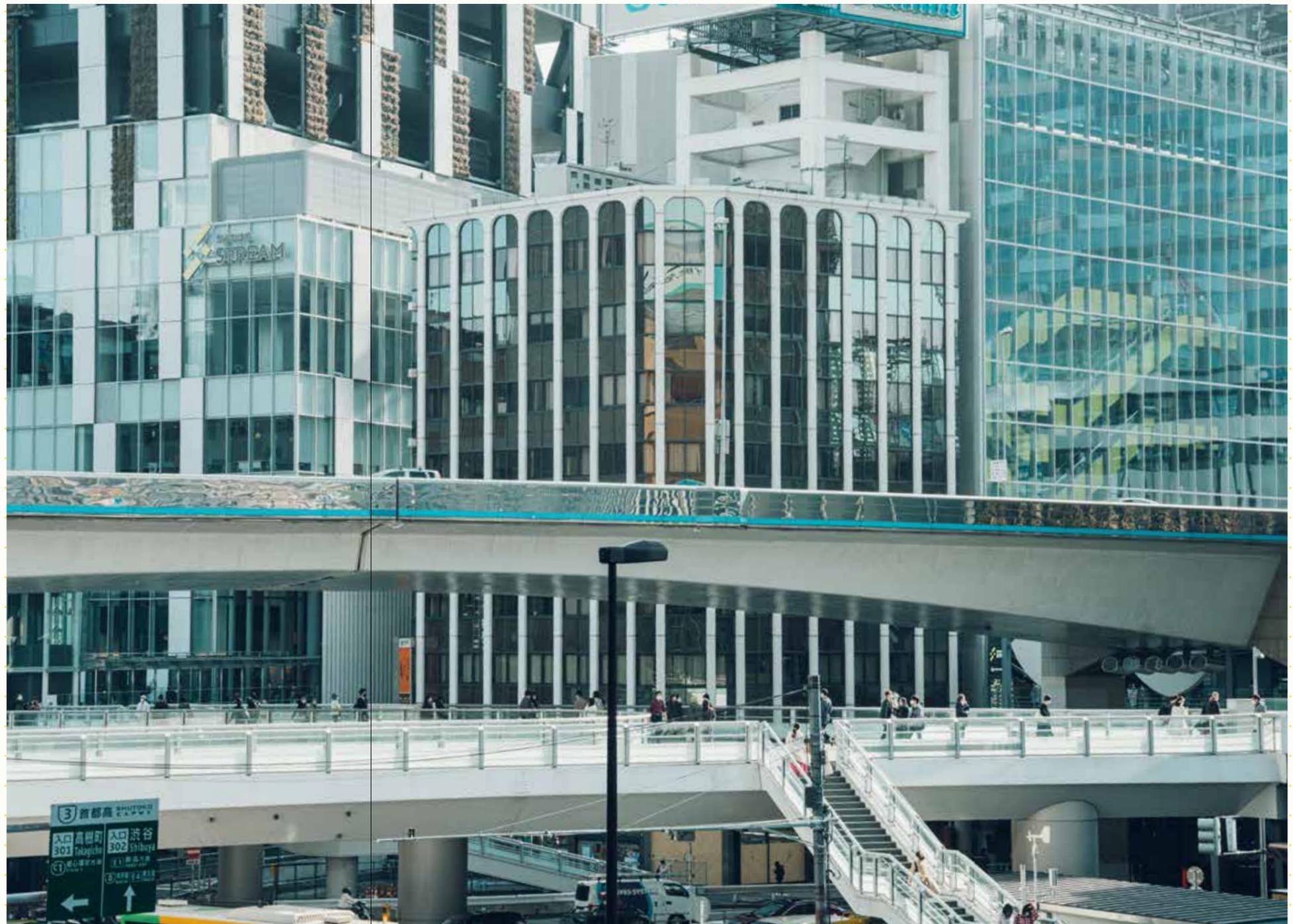
こんな思いを持つ人は、しぶやをつくるゼミに応募してみてください。

皆様と一緒に、渋谷について会話できることを楽しみにしております。

「しぶやをつくるゼミ」をどうぞよろしくお申し込み申し上げます。

一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント

特定非営利活動法人シブヤ大学



「しぶやをつくるゼミ2021」

実施期間 2021年9月 - 2022年2月
 発行日 2022年4月
 デザイン 中村圭佑
 写真撮影 KOBA、鈴木夏奈、橋本越百
 共催 一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント、特定非営利活動法人シブヤ大学
 問合せ先 一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント
 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1丁目3番8号丸共ビル4階
 特定非営利活動法人シブヤ大学
 〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-6 JP noie 恵比寿西1F co-ba ebisu



しぶやをつくるゼミ